

東海北陸自動車道遺跡試掘調査報告

——福光町編——

1989年3月

富山県埋蔵文化財センター

序

富山县埋蔵文化財センターでは、昭和45年以降高速道路建設に伴う遺跡の発掘調査を実施しています。これらの地域の活性化に貢献する大型開発事業と遺跡の保護とを調整しながら実施することは容易ではありません。しかし、調査によって得られた成果が、地域社会の歴史や文化を知るうえでの重要な発見となっていることも少なくありません。

ここに報告するのは、東海北陸自動車道建設に伴う福光町地内の試掘調査の成果であります。調査で確認された遺跡は、鎌倉・室町時代の大規模な集落であります。文献史料によると、福光、福野町にかけての広範囲に石黒莊が存在したといわれています。石黒莊は円宗寺の所領として成立し、中世を通して存続していました。上記遺跡も莊園村落の可能性が高いと考えられます。当城は石黒莊の中の山田郷、あるいは大光寺郷に比定する考えがあり、一致をみていません。今後の調査結果がこれを見直す契機になるものと思われます。

最後に、今回の調査に当たり、格別の御協力と御配慮を戴いた福光町教育委員会を始め関係機関の各位に心からお礼を申しあげます。

平成元年3月

富山县埋蔵文化財センター

所長 奥村 宏

例　　言

1. 本書は、昭和63年度に高速自動車国道東海北陸自動車道建設事業に先立ち実施した、富山県西砺波郡福光町管内に所在する埋蔵文化財包蔵地の試掘調査報告である。

2. 調査は、富山県教育委員会が主体となって富山県埋蔵文化財センターが実施した。調査期間は、昭和63年7月4日から9月22日の間の延べ38日間で、各遺跡の調査日は以下のとおりである。

THJ-13遺跡 7月4日～7月5日の間の2日間

THJ-14遺跡 7月5日～8月4日の間の20日間

THJ-15遺跡 8月1日～8月9日の間の4日間

THJ-16遺跡 8月9日～8月11日の間の3日間

THJ-17遺跡 8月11日～8月22日の間の4日間

THJ-18遺跡 8月22日～8月23日の間の2日間

THJ-19遺跡 8月23日～9月22日の間の19日間

3. 調査事務局は、富山県埋蔵文化財センターに置き、主任肥田啓章・岸本雅敏、文化財保護主事久々忠義が調査業務を担当し、所長奥村 宏が總括した。

4. 発掘調査は、富山県埋蔵文化財センター主任関 清、文化財保護主事池野正男が担当した。また、福光町教育委員会岩佐 崇の協力を得た。

5. 本書の編集・執筆は、富山県埋蔵文化財センター所員の協力を得て池野正男が担当した。

目　　次

I	調査に至る経緯	1
II	調査の概要	1
	表1 調査対象遺跡一覧	1
	図1 遺跡の位置	2
	表2 調査結果一覧	3
III	遺跡の特徴	4
	図2 調査トレンチの位置と遺跡の範囲	
	図3 調査トレンチの位置	5
	図4 出土遺物	6
	図5 研究トレンチの位置	
	図6 出土遺物	7
	図7 出土遺物	8
	写真図版	

I 調査に至る経緯

県下を東西に横断する北陸自動車道の建設工事は、昭和63年に新潟県との県境、朝日・名立谷浜間の開通をもって全線が完成した。この間、建設工事に先立つ遺跡の発掘調査は、昭和45年的小杉町上野遺跡の調査を皮切りに昭和62年の朝日町馬場山遺跡群の発掘調査終了まで18年を要した。

ところで、北陸自動車道の建設工事が急ピッチで進められていた昭和53年新たな高速道路整備計画が策定された。それは東海地方と北陸地方を結ぶ東海北陸自動車道建設計画で愛知県一宮市を起点とし、岐阜県を経て富山県小矢部市に至る延長175kmの高速道路である。そして、昭和57年日本道路公団から富山県教育委員会に小矢部市から福光町間11kmの分布調査の依頼があり、同年12月富山県埋蔵文化財センターが実施した〔富山県教委 1983〕。

分布調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地が2ヵ所含まれていることを確認し、また、新たに19ヵ所の埋蔵文化財包蔵地を発見した。この内、福光町管内（延長4.7km）には7ヵ所の埋蔵文化財包蔵地が含まれ、今回の試掘調査対象地である。

II 調査の概要

試掘調査の対象遺跡は、THJ-13遺跡からTHJ-19遺跡の7ヵ所である（表1）。これらの遺跡は西側に小矢部川・大井川、東側に山田川に挟まれた段丘上に位置する。段丘の東側は4～5mの崖線を形成するが東側は未発達で山田川の扇状地的様相を持つ。しかし、調査箇所の地山は黄褐色土あり、礫層で構成された地区は少ない。従って、大規模な冠水を受けることがなく、比較的安定した地域であったと推定出来る。

調査は重機及び人力によって約10m間隔に試掘トレンチを設け、包含層及び遺構の有無確認を目的とした。従って、遺構の発掘調査は実施していない。

1. THJ-13遺跡の調査（図2）

THJ-13遺跡は福光町の北端、梅原字安丸地内に位置する。試掘調査対象地の北・東側に小河川権現堂川が流れ、開析された1～2mほどの落差をつくる。

調査は約1.5m幅の試掘トレンチ8本を設け、地表面（10～100cm）まで掘り下げた。その結果、北側半分には包含層・遺構は見られないが、南側で遺構、包含層を確認した。遺構は径1mの円形の穴で多くの人骨を含み、珠州（図7の1）が伴出した。また、包含層は斜面地の小範囲に残存し、中世土師器（図6の1）が出土した。

遺跡の本体は西側に広がると推定される。また、遺跡名は小字名をとって梅原安丸遺跡とする。

遺跡名	所在地	時代	試掘対象面積(m ²)	地目	探査道具
THJ-13	福光町梅原	中世	4,000	水田	中世土師器
THJ-14	福光町梅原・久戸・宗守	縄文～近世	107,400	水田・宅地	縄文土器・須恵器・土師器・珠州・磁器
THJ-15	福光町竹林・鎌古	中世～近世	21,500	水田	中世土師器・伊万里
THJ-16	福光町竹林	中世～近世	7,200	水田	伊万里・石口
THJ-17	福光町竹林	近世	10,500	水田	伊万里
THJ-18	福光町大塚	近世	7,400	水田	伊万里
THJ-19	福光町大塚・天池・山田	縄文～近世	86,000	水田	縄文土器・石器・須恵器・陶磁器

表1 調査対象遺跡一覧

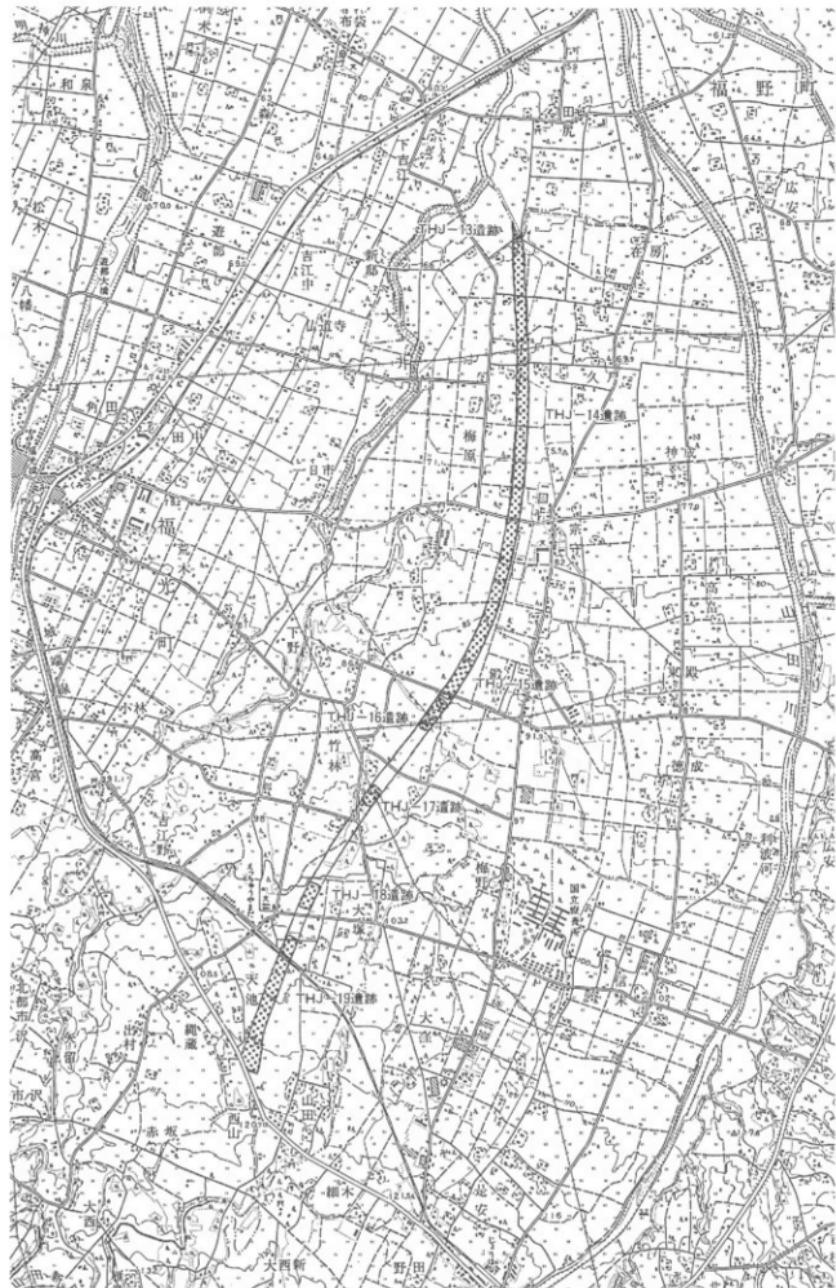


図1 遺跡の位置

2. THJ-14遺跡の調査(図2)

THJ-14遺跡は梅原・久戸・宗守地区の延長約2kmにわたって遺物が散布する大規模な遺跡で、この中には分布調査以前に周知されていた安楽寺跡が含まれる。

調査は幅約1.5mの試掘トレーン146本を設け、地山面まで掘り下げた。試掘調査面積は7,235m²である。その結果、2遺跡が確認でき、遺跡名は小字名をとて北側を梅原加賀坊遺跡、南側を梅原胡摩堂遺跡と呼ぶ。

梅原加賀坊遺跡は延長370mにわたる遺跡で東西に横断する町道を境に北側をA地区、南側をB地区とする。

A地区は地山面まで60~80cmと深い。確認した遺構は多くなく、10数個の柱穴、溝、土坑がある。遺物は量は多くないが広範囲から各時代の土器が出土した。出土遺物を列記すると、縄文時代後期半の土器(図4の1~9)、9世紀後半の須恵器(図6の54)、12世紀代の白磁、中世の青磁、山茶碗(図6の55)、珠洲(図7の2~5)、八尾町京ヶ峰窯の製品、底部外側に糸切り痕を残す中世土師器(図6の2)などがある。

B地区は東側に権現堂川が流れ、遺跡は西側に広がる。地山面までの深さは20~60cmで、多くの柱穴、溝、土坑を確認した。出土遺物は多くないが縄文時代後期の土器(図4の10)、中世の白磁、青磁、中世土師器、珠洲(図7の6~9)、越前などがある。

梅原胡摩堂遺跡は延長約1kmにわたる大規模な遺跡であり、横断する用水、県道によって便宜上北側からA~C地区に3分割する。

A地区は梅原胡摩堂地内に位置し、地山面までの深さは20~100cmで南側の一部を除いて全般的に深い。また、全般的に西側が深く、地山面は僅かに傾斜する。遺構はA地区全体に広がり数多くの掘立柱建物(柱穴)、溝、土坑を確認した。また、厚さ20~30cmの良好な包含層があり、遺構はこの層から掘り込まれる。出土遺物には少量の縄文土器(図4の11)、須恵器、数多くの中世土師器(図6の3~37)、白磁(図6の47~49)、青磁(図6の41~46・48~50・51)、珠洲(図7の10~20)、越前などがある。

B地区は大部分が梅原胡摩堂地内で宗守地内が僅かに含まれる。また、安楽寺跡は当地区に含まれる。B地区はは場整備によって削平を受けており、地山面までは20~40cmと浅く遺物包含層を残さない。遺構は溝、土坑が多く柱穴は比較的少ない。また、安楽寺跡の寺域等の関連遺構は確認できなかった。出土遺物には縄文土器(図4の12)、須恵器(図6の58)、白磁(図6の52)、青磁(図6の53~56)、珠洲(図7の21~30)、越前、中世土師器(図6の38~40)などがある。

C地区は宗守地内に位置する。地山面までの深さは10~80cmでは場整備による削平、盛土が認められるが全体的に浅い。また、遺跡内に宅地(工場)が含まれる。遺構は溝、土坑が多く、柱穴は比較的少ない。また、北側部分には時期不明の穴が多く認められた。出土遺物は縄文土器(図4の13)、中世の青磁(図6の57)、越前(図7の31)、珠洲(図7の32~36)、越中瀬戸(図6の59)、信楽などがある。

遺跡名	試掘調査面積(m ²)	確認 遺構	出土遺物
梅原 安丸 (THJ-13)	452	墓坑	中世土師器、珠洲、青
梅原加賀坊 (THJ-14)	1,236	掘立柱建物(柱穴)、溝、土坑	縄文土器、須恵器、中世土師器、珠洲、山茶碗、白磁、青磁
梅原胡摩堂 (THJ-14)	5,999	掘立柱建物(柱穴)、溝、土坑	縄文土器、須恵器、中世土師器、珠洲、越前、白磁、青磁、越中瀬戸、信楽

表2 調査結果一覧

3. THJ-15遺跡の調査（図2）

THJ-15遺跡は竹林・鐵治地内に位置する。段丘上には多くの小起伏がみられるが、THJ-15遺跡の大部分はその谷部にあたる。

調査は延長約360mの対象地に試掘トレンチ24本を設けて、地山面(20~80cm)まで掘り下げた。発掘面積は約1,360m²である。調査の結果、遺構、遺物は確認出来なかった。

4. THJ-16遺跡の調査（図2）

THJ-16遺跡は竹林地内に位置し、対象地の中央に用水が流れる。

調査は延長約300mの対象地に試掘トレンチ13本を設けて、地山面は砂礫混じり土で深さ20~80cmまで掘り下げた。発掘面積は約830m²である。調査の結果、遺構、遺物は確認出来なかった。

5. THJ-17遺跡の調査（図3）

THJ-17遺跡は竹林地内に位置する。

調査は延長約200mの対象地に試掘トレンチ11本を設けて、地山面(30~80cm)まで掘り下げた。発掘面積は約740m²である。調査の結果、遺構、遺物は確認で来なかつた。

6. THJ-18遺跡の調査（図3）

THJ-18遺跡は大塚地内に位置する。

調査は延長約170mの対象地に試掘トレンチ11本を設けた。地山面は砂礫混じり土で深さ20~90cmまで掘り下げた。発掘面積は600m²である。調査の結果、遺構、遺物は確認出来なかつた。

7. THJ-19遺跡の調査（図5）

THJ-19遺跡は大塚・山田・天池地内に位置する。遺跡の北側にJR城端線が交差し、南端に国道304号に接する福光インターチェンジ予定地である。

調査は延長770mの対象地に試掘トレンチ68本を設けて、地山面(20~100cm)まで掘り下げた。発掘面積は約5,590m²である。調査の結果、遺構、遺物は確認出来なかつた。

III 遺跡の特徴

1. 梅原安丸遺跡の時代・性格

梅原安丸遺跡の本体は調査対象地の西側に広がると推定される。今回確認出来た遺構は墓坑と小範囲の遺物包含層のみであり、遺跡の性格を推定することは難しい。遺跡の時期は出土遺物が少なく明確でないが室町時代頃と考えられる。

2. 梅原加賀坊遺跡の時代・性格

梅原加賀坊遺跡のA地区とB地区では著しく遺構の様相が異なる。B地区は割立柱建物が想定でき、西側の路線外に延びる集落遺跡の一角をなす。これに対しA地区は明瞭な遺構集中地点ではなく、集落遺跡とは推定出来ない。また、路線外との関連も明瞭でない。

遺跡の時期を山上遺物から推定すると、B地区山上の珠洲は吉岡編年[吉岡他 1976]のIII・IV期頃、また、明代の棗花皿があり14・15世紀（室町時代前半）が主体の集落遺跡と推定される。

A地区の出土遺物には、12世紀後半の白磁、県内初例の13世紀代の山茶碗、II・III期頃の珠洲があり、12・13世紀が主体の遺跡であろう。また、縄文時代後期の土器、9世紀後半代の須恵器が少量出土しており、この時期の遺構が存在する可能性がある。

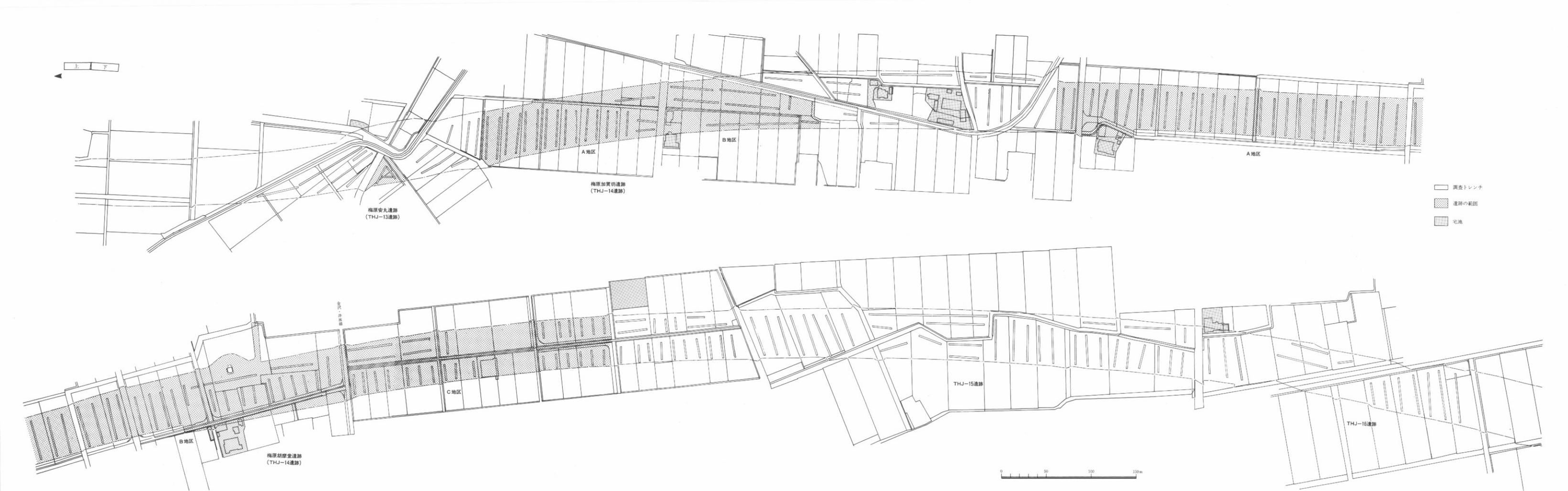


図2 調査トレンチの位置と遺跡の範囲

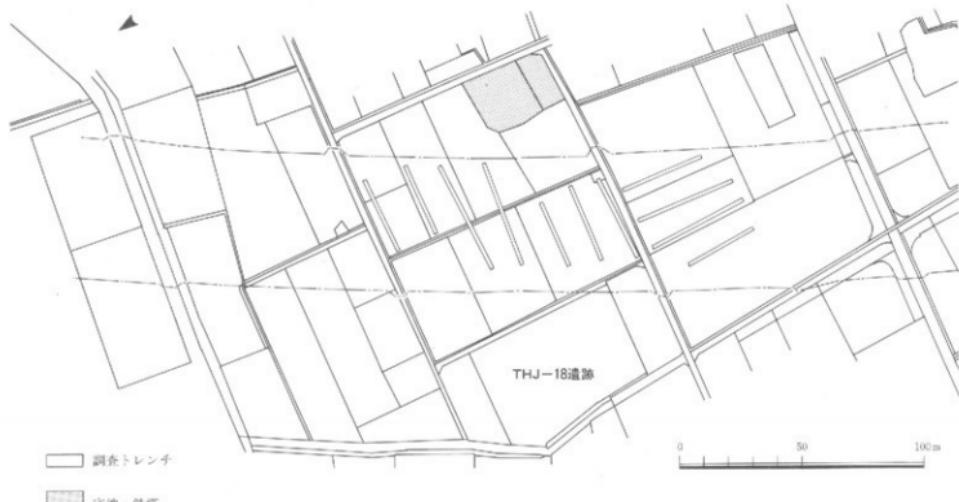
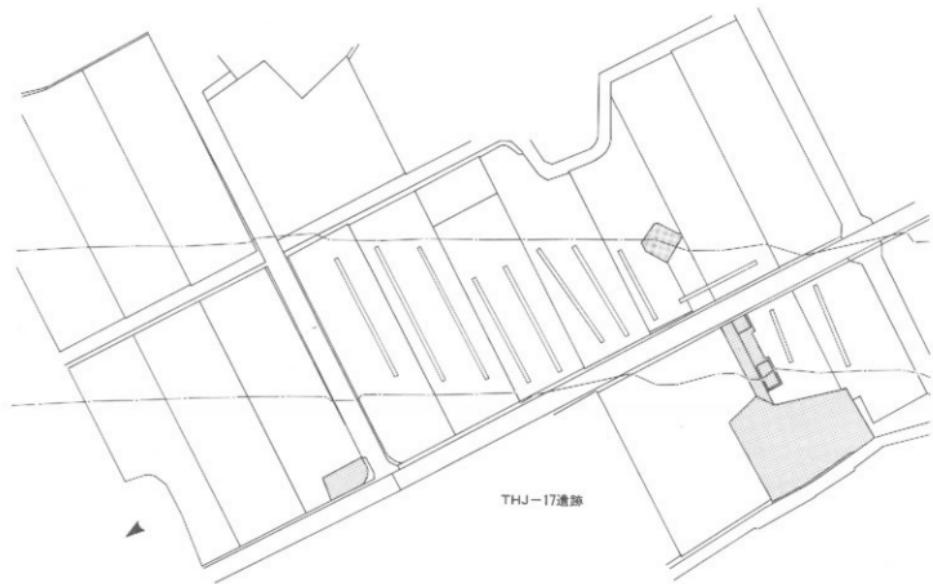


図3 調査トレンチの位置

3. 梅原胡摩堂の時代・性格

梅原胡摩堂遺跡は1kmにもおよぶ大規模な遺跡であり3分割した。3分割したA地区とB・C地区では著しく遺構の様相が異なる。A地区は相当数の掘立柱建物が予想され、今回試掘調査した遺跡の中でも最も遺構密度が高い。さらに、遺構構築面まで深く、また、戦時中のは場整備で搅乱が少なく、良好な遺物包含層を残す集落遺跡の中心部である。これに対してB・C地区は溝、土坑が主体をなし柱穴は比較的少なく、集落遺跡の縁辺部と推定される。

出土遺物から遺跡の時期を推定すると、多量に出土した中世土師器は12世紀後半から13世紀前半のものが主体をなし、その前後のものが僅かに認められる。青・白磁は20点近く出土し、青磁には12世紀後半代の同安窯系の楕、皿、同時期の刻花文をもつ龍泉窯系の楕、同窯系の蓮弁文をもつ楕、明代の底部内面に印花文をもつ楕、刻線の蓮弁文をもつ楕などがある。白磁には口縁部を八角形にした多角杯などがある。珠洲は遺跡南側からI・II期のものが集中的に出土し、III・IV期のものもある。従って、遺跡の時期は12世紀後半から13世紀前半を中心とする15世紀代までつく。

B地区の出土遺物には、12世紀後半代の玉縁口縁の白磁、明代の青磁、IV期頃の珠洲などがあり、14世紀代を中心とされた遺跡であろう。

C地区的出土遺物は多くないが、V・VI期頃の珠洲、15世紀後半から16世紀前半頃の越前、越中瀬戸などがある。従って、15・16世紀を中心に當まれた遺跡と推定される。

引用文献

富山県教育委員会 1983 「東海北陸自動車道関連埋蔵文化財分布調査報告書」

吉岡康輔・平田天秋 1976 「珠洲古窯跡」『石川県珠洲市史』第1巻

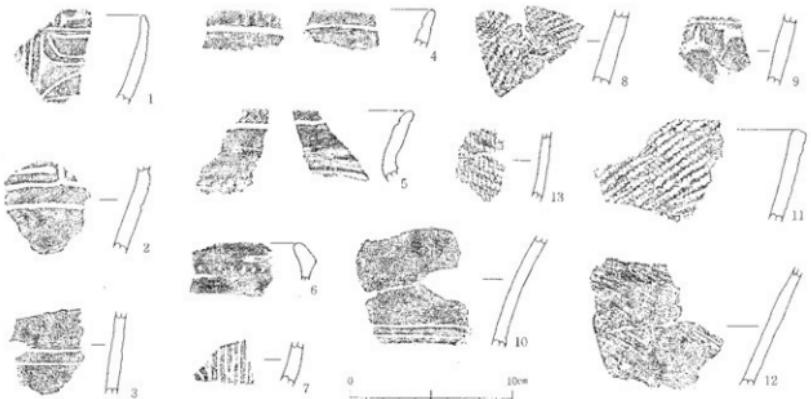


図4 出土遺物 1~9. 施原加賀坊遺跡A地区 10. 施原加賀坊遺跡B地区 11. 梅原胡摩堂遺跡A地区
12. 梅原胡摩堂遺跡B地区 13. 梅原胡摩堂遺跡C地区

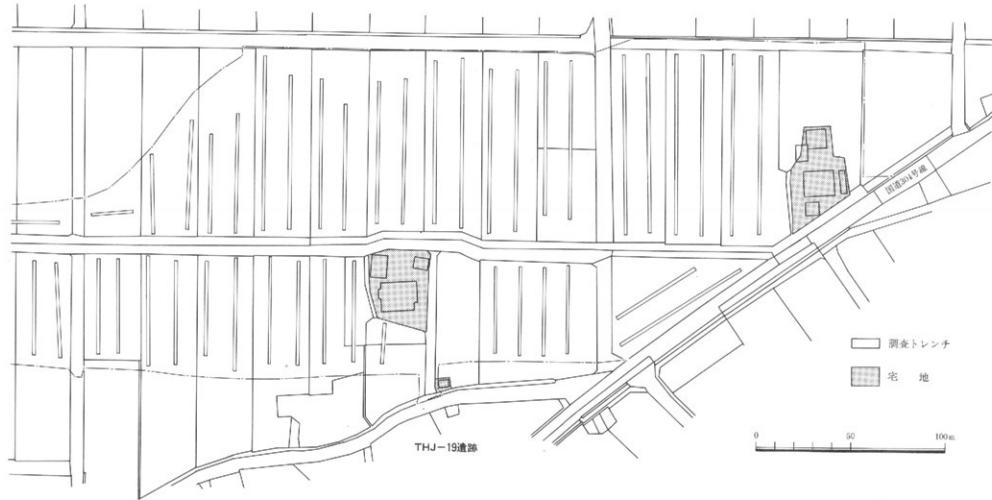
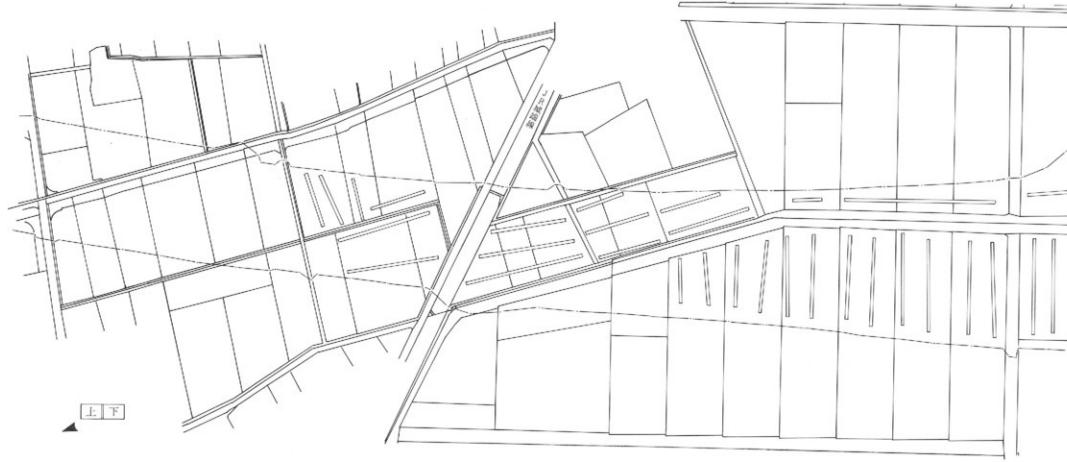


図5 調査トレンチの位置

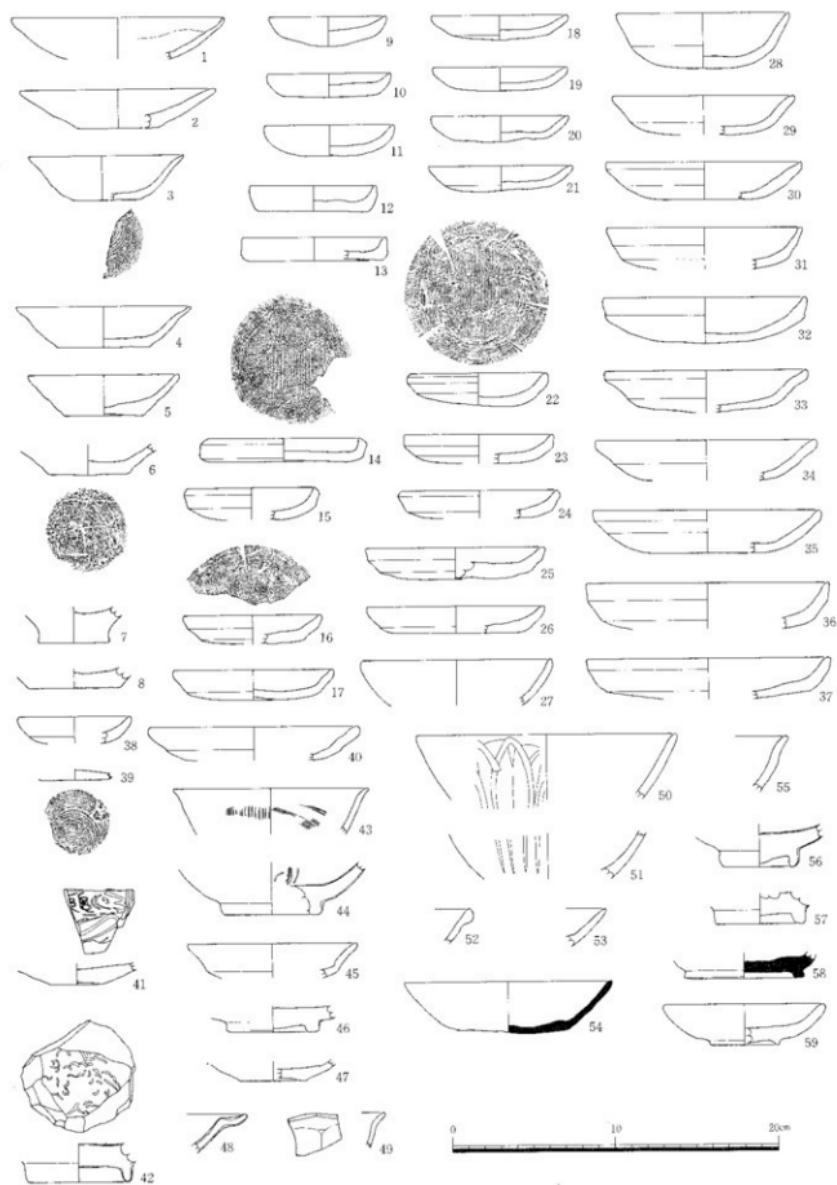


図6 出土遺物 1. 梅原玄丸塗路 2-54-55. 指原加賀坊塗跡A地区 3-37-41-51. 梅原胡母生塗路A地区
38-40-52-53-56-58. 梅原胡母生塗路B地区 37-59. 梅原胡母生塗路C地区

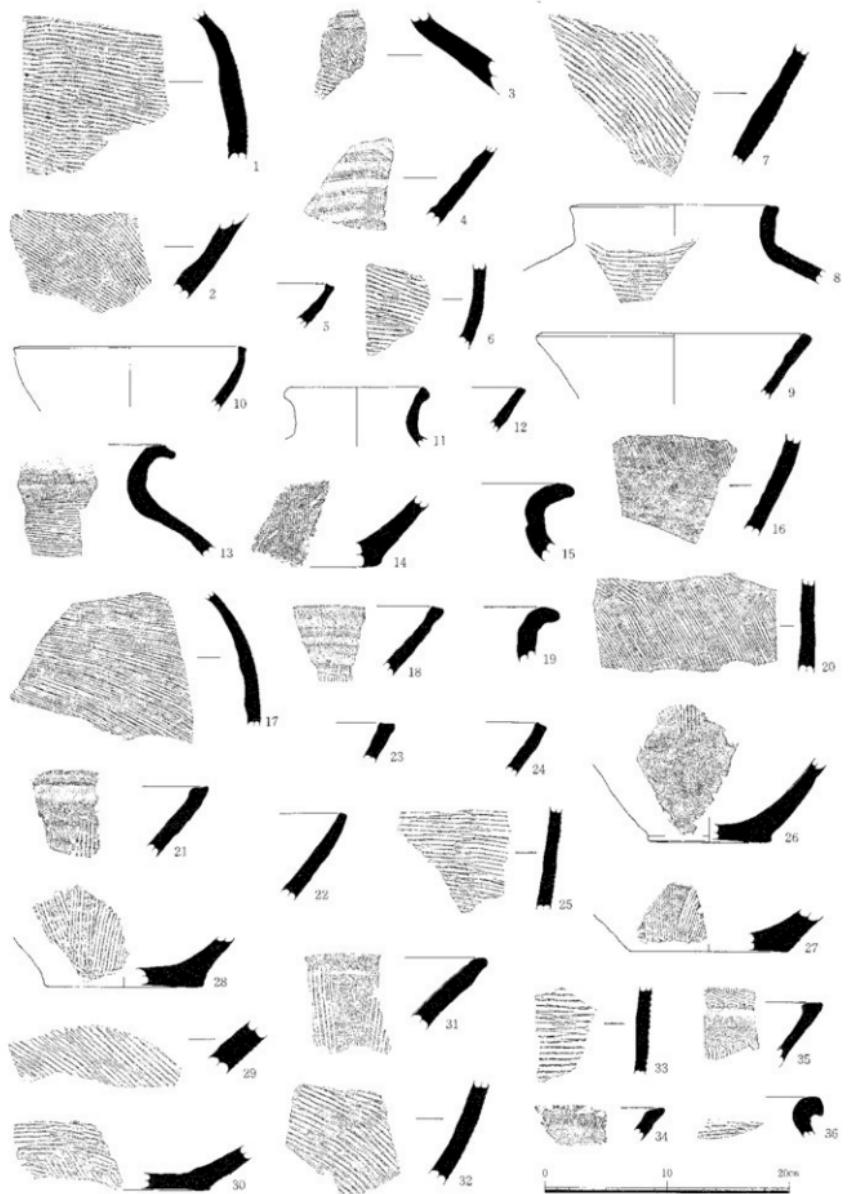


図7 出土遺物

1. 梅原丸丸遺跡 2~5. 梅原加賀坊遺跡A地区 6~9. 梅原加賀坊遺跡B地区 10~20. 梅原胡參壹遺跡A地区
21~30. 梅原胡參壹遺跡B地区 31~36. 梅原胡參壹遺跡C地区



遺跡群俯瞰（南から）



遺跡群俯瞰（南から）

図版3

1. 梅原安九
遺跡
梅原加賀
坊遺跡
(西から)



2. 梅原加賀
坊遺跡
梅原胡摩
堂遺跡
(西から)



3. 梅原安九
遺跡調査
風景



4. 梅原加賀
坊遺跡確
認遺構



1. 梅原胡摩
堂遺跡
A・B地区
(西から)



2. 梅原胡摩
堂遺跡
B・C地区
(西から)



3. 梅原胡摩
堂遺跡 A
地区唯脇
遺構



4. 調査風景

図版 5

1-2.

梅原胡摩
堂遺跡A
地区確認
遺構



3. 梅原胡摩
堂遺跡C
地区
THJ-15
遺跡
(西から)



4. THJ-15
・16遺跡
(西から)

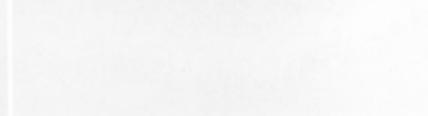




1. THJ-16
～18遺跡
(西から)



2. THJ-16
・17遺跡
(西から)



3-4.
調査風景

図版 7

1. THJ-17
・18遺跡
(西から)



2-3.
調査風景



4. THJ-18
・19遺跡
(西から)

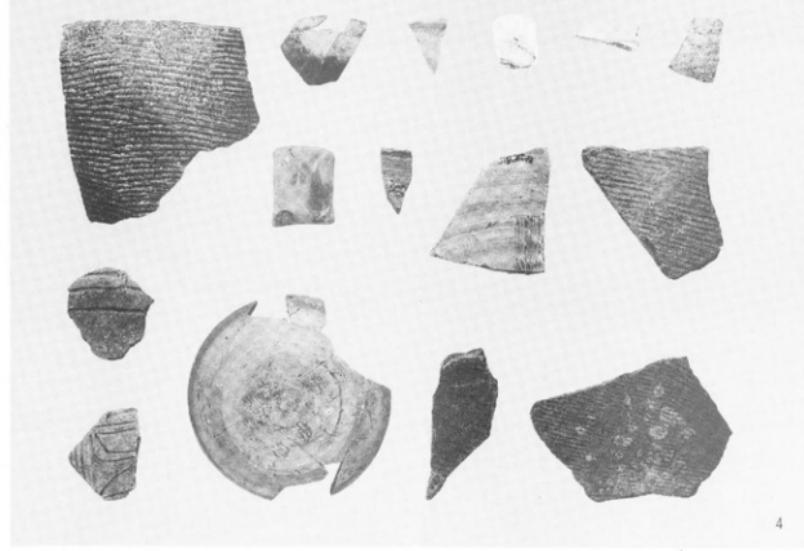




1. THJ-19
遺跡
(西から)



2-3.
調査風景

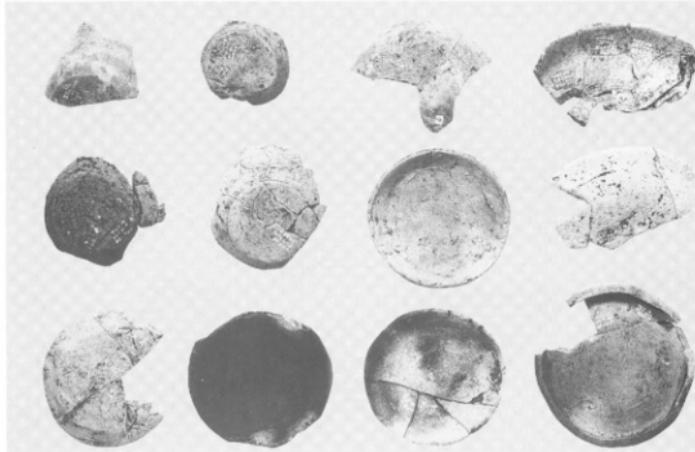


4. 梅原安九
遺跡
梅原加賀
坊遺跡 A
地区出土
遺物

1. 梅原加賀坊遺跡
B 地區出土遺物



1



2

2-3. 梅原胡摩堂遺跡
A 地區出土遺物



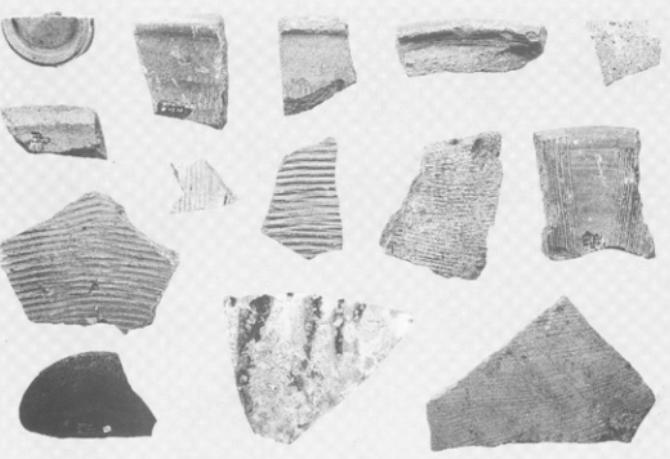
3



1. 梅原胡摩堂遺跡
A 地区出土遺物



2. 梅原胡摩堂遺跡
B 地区出土遺物



3. 梅原胡摩堂遺跡
C 地区出土遺物

平成元年 3月31日 発行

東海北陸自動車道遺跡

試掘調査報告

— 福光町編 —

編集発行 富山県埋蔵文化財センター

印刷 有限会社 栄和印刷